

マスタープラン説明会アンケート自由記載

○10月18日（水）川湯ふるさと館

60代 住民

- ・自然と温泉（源泉という価値を見つめたい）
- ・人とのつながりを大切に考えてほしい。
- ・ラグーン的位置を考えてください。室内という意見も。生活している住民も子供も若者もいるのですから。

40代住民 町内事業者

- ・インバウンド向けにラグーンのイメージがあるが、川湯温泉の魅力というのは、日本の良き温泉だと思う。外国人も日本らしさを求めて日本に来るのに、外国風がここにあっても、それは川湯温泉の良さが半減されてしまう気がする。日本人も外国人も日本の温泉地へ旅行するなら、山、湖で遊んだ後は、ゆっくり落ち着いて温泉に入りたいと思う。また、子育てしていく中で、観光客とのあり方、子供にも一緒に育つ町であってほしい。「温泉の良さ、道東の山の中の良さ」を残してほしいと思う。時代のニーズだけでは、10年後、20年後またニーズが変わってくると思う。川湯温泉本物の温泉を後世、観光客に見せたいと思う。

50代住民

- ・民間会社が星野リゾート以外の参画も必要

60代 町内事業者

- ・自分はそうは思わないが、ラグーンの絵で皆が止まってしまっている。ここを早めに案を練って、納得いく形を作って欲しい。

30代 町内事業者

- ・この事業は賛成なのですが、正直、今よりも高い金額でのお客さんが増える中で残っていけるかどうかという不安もあります。また、このままの計画内容ですすんでいくと、ここで生活するひとの暮らしが想像できません。もう少し、暮らしている人の考えや、今商売している人の意見をもっと吸い上げてほしいです。3月までで時間もなくて大変ですが、住民ももう少し納得できる内容にしていだけたらと思います。

50代 町外事業者

- ・マスタープランが順調に進み川湯温泉街の繁栄を期待しております。

50代 住民

- ・様々な方法で、町内外の関係者と、コミュニケーションを密に行って欲しい。今回の様なスタイルはもちろん、違う方法も何種類を考えてもらえると嬉しい。特に町内と住

民や事業者、そして新たな事業者や住民が分断されることなく、プロジェクトが成功する様願っています。

40代 住民 町内事業者

- ・住民の意見の吸い上げがこれまで出したりなかったように感じます。今後その点を意識して進めていけば良いものになると思います。
- ・ラグーンに関しては地元の一定の理解が得られるならやればいいですし、得られなかったら無理に進めることはないかと思います。
- ・既にあるものをもう少し活かす形も検討してみてもどうでしょうか。例えば森のアクティビティーゾーンは新たに作らなくても川湯園地その他のエリアに展開が可能なのでは。方向性は理解できますが、少し盛り込み（つめこみ）過ぎかも。
- ・日帰り施設では、可能なら展示スペース、ワーキングスペースも併設して頂きたいです。
- ・全体として既存施設をどう活かすか？という視点での落とし込み少し足りないような印象を受けます。そのあたりもうまく言葉にしてみてもどうでしょうか。
- ・川湯ファンとして期待しています。

○10月20日（金）川湯ふるさと館

40代 住民

- ・満喫プロジェクトが始まってからここまでの歩みをふり返り、大変感慨深いです。弟子屈町の観光は川湯温泉の再生から。弟子屈町らしい持続可能な観光実現に向けて川湯の取り組みに期待しています。マスタープラン策定までのプロセスに、住民が関わる機会が少なかったと思います。今後の具体化に向け、より多くの対話、検討があると嬉しいです。

50代 町内事業者

- ・期待も大きい。川湯温泉が大きく変わるチャンスだと思うが、住民不在の進め方のように感じる。多くの住民意見をもっと取り入れてほしい（入れているのだろうけど）。これから、様々な事が決定されていくのだろうが、細かく情報を発信してほしい。町民が集まって意見交換できる場がほしい。賛成、反対意見が共有できる場が無ければ理解が深まらないと思う。このアンケート集計もオープンにしてほしい。

30代 町内事業者

- ・今の川湯の人たちにとって、目指したい姿なのであれば良いと思う。ただ思うには計画に町民が議論する過程の時間があまりにも少ないし短いと思う。川湯の人や町民がどう思っているのか、それを共有する場がほしい。みんなの川湯はみんなが考えるべきかと。進める上でアンケートはオープンにしてほしい。

50代 住民 町内事業者

- ・川湯ラグーンについてはもっと多くの意見を取り入れてほしい。
- ・開発する際はしっかりと環境アセスメントをしてほしい。（野生動物や屈斜路湖水質など）
- ・排水の問題をクリアにしてほしい。
- ・アンケートの集計をオープンにしてほしい。

40代 町外事業者

- ・温泉地の為、鉄、ステンレスでは長持ちしないと考える為、耐食性を考えてチタン製品の活用が良いと思う。

40代 町外事業者

- ・初めて訪れましたが自然に囲まれた良い所だと思います。妻がアトピーがひどかった子供の頃、訪れていたとの事で泉質の良いこの温泉を魅力ある街にさせていただきたいです。キャンプ場は冬も営業してほしいです。

50代 町内事業者

- ・質問で出ていた横丁はプランの順をつけて集客が得られてから作っていく既存の飲食店を守るため。

40代 住民 町内事業者

- ・ラグーンはパートナーと、もしくはファミリーで使うには良いかと思います。「野湯がいい」というお客様（特に海外の方）は多いかと思うので需要はあるかと。自分は衛生面など気になるので日帰り入浴施設を使うと思います。混浴も気になってしまうので。この辺りは国立公園内で希少な動植物がたくさんあるところなので、かわらずその子供たちと共生していける環境であつたらいいなと願っています。

40代 住民

- ・旅行会社に情報提供をするあたり今後具体的なスケジュールの発表を希望します。（例）入札情報、工期予定など決定順に
- ・ラグーンは魅力的な場所になりそうですが、経験上維持管理に大変苦勞すると思います。（例）温度管理、清掃管理など
- ・完成後の具体的な方法を十分に検討を長く継続できる名物スポットになることを期待します。

30代 住民

- ・各々の視点の違いにより見えるものの違い、また見えないものの違いがあると思うので、意見交換は密に設けて欲しい。また施設等の拡充が図られる予定であれば、大前提として必要になってくるのは「人」であると思うので、十分な居住地の確保が不可欠であると思います。

30代 町内事業者

- ・新しいマスタープランに期待しています。ここからの結果成果が大切だと感じました。本日は説明会ありがとうございました。

30代 町内事業者

- ・川湯横丁は日中も営業しているといいなと思いました。
- ・夜は地元店舗への導線的な役割を、日中はテイクアウトメインで森の導線的な役割を担うようなエリアになると、訪れた人がより長く楽しめるのではと感じました。（キャンプ場や外のベンチ等で食べられるように。冬は悩みますね）

60代 住民

- ・川湯ラグーンの本湯プール、温水プールは不要だと思います。足湯、日帰り入浴施設をより良いものにしていただきたいと感じます。川湯に来て水着になりたいと思う人はあまりいないのではないのでしょうか？どちらか迷っているなら、どうか温泉（プールなし）にとどめて欲しいです。湯量も、管理も、景観的にも、かなり無理がある気がします。そして大前提として、新たに何かを造るのは極力抑えていくべきだと思います。今の時代。

20代 住民

- ・今回、「発展」というワードが気になった。ご説明いただくとおり、30年後今のマスタープランは古くなっていて、常に変わり続ける必要があると思います。変わりたいと思ったときに変われる仕組みを整備する必要があると思いました。
- ・特に設備面は劣化しやすい場所だと思うので、設備改修の費用がかさむことを考慮したうえで経営計画を描く必要があると思いました。
- ・川湯ラグーンについては、掘削などの自然環境への影響もあると思うので慎重に検討していただきたいと思います。

50代 町内事業者

- ・阿寒摩周国立公園とはなっていますが、阿寒湖については船舶や釣りに対しても事業として成り立っていますが、屈斜路湖に関して、動力船禁止についてこれをきっかけに町内遊漁船業を認め観光に活かすと共にアウトドアビジネスにつなげてほしいです。

○10月21日（土）役場庁舎一階ロビー

50代 町外

- ・段階を経て開発を進める形に高い実現性を感じました。具現化するときに、持続性を考慮して（夢物語ではない地に足がついたもの）計画になっていることが大切かと思いません。期待しています。

50代 町内事業者

- ・地域住民とうまく同意しながら進めてください。

40代 住民

- ・静かな弟子屈が好きで引っ越してきたのでどれぐらいにぎやかになるのかなあと考えています。

40代 住民

- ・雇用が一番の課題

30代 町内事業者 町外事業者

- ・星野リゾートのホテルのための開発ではなく「弟子屈町全体」に対する開発を期待します。食・住・遊が全てこのエリアで完結してしまう場合、エリア外の事業者はどうするのか。20年という長いスパンの計画に対して、想いや熱を伝え続けていけるのか。そのための若い人材の確保はどのように行うのか。既存の事業者の経営を継続させる事を弟子屈という地域では難しい反面をどのようにカバーするのか。現状だれでもリソースの取り合いになってしまうように思います。

30代 町内事業者

- ・道外（本州）でのプロジェクト知名度が低いと思います。オープン直前のPRは簡単ですが施行中のPRこそ期待値UPにつながるのでは。本州から2時間以上かけて札幌・函館ではなく川湯を選ぶのは相当な引きがないと難しい。

40代 住民

- ・水と森の町、ゼロカーボンと反対のことをやっている気がします。ラグーンに関しては、安全、衛星管理や排水等、どうなるのか不安です。また、人材確保や確保できたとしても住まいの問題等プラン外の事も全てクリアにしていけないとこの計画は進まないと思います。役場の皆さんも間に入って大変かと思いますが弟子屈町にとって、とっとも大事な計画なのでよろしくお願いします。みんなでステキな弟子屈町にしましょう。

40代 住民

- ・知ることができてよかったです。

40代 住民

- ・ラグーンの維持管理費をラグーン利用客から安売りせず検討してほしいです。

50代 町内事業者

- ・ラグーンや宿泊に加え、夜の星空体験（摩周湖、屈斜路湖、硫黄山）や朝の雲海なども加えて、他では味わえない圧倒的な感動をしてもらえるようにしたい。ガイドの人数が少 . なすぎるのでガイドの確保が課題。

50代 . 住民 町内事業者

【質問事項】

- ・マスタープランは誰が作ったのですか？協議会等のコンセンサスを得て策定したのであれば、改めて構成員を提示していただきたい。
- ・地域住民へのヒアリングはどのような基準で行われたのでしょうか？
- ・「川湯温泉にふさわしい規模」の根拠はありますか？
- ・開発をして次の投資へ回していく前提として、施設のランニングコストと人口推移予測、税収見込み等の収支シミュレーションを行っていますか？
- ・本来マスタープランは川湯オープン会議的な協議を経て策定されるべきと考えますが、なぜ先にプランを公開したのでしょうか？
- ・マスタープランを遂行する財源は何を想定していますか？
- ・交付金等を受ける場合、縛りはないのでしょうか？（実施期間、計画変更などに制限がないのか？）
- ・インフラを町で整備するのであれば、将来規模を縮小した場合の撤去財源を準備するべきと考えますが、その予定はありますか？
- ・川湯オープン会議の決定機関は「運営協議会」と「弟子屈町」となっていますが、運営協議会という会議体の構成員は誰ですか？
- ・まちづくり会社を組成することになっていますが、弟子屈町には既にテシカガタウンラポがあり、また今後DMOが主体となる地域戦略会議があります。それらとの関係はどのようになるのでしょうか？

（説明会の際に、町の計画は上位から、「総合計画>観光振興計画>川湯温泉街まちづくりマスタープラン」であり、地域戦略会議がマスタープランを運営するというようなお話もありましたが、マスタープラン内のオープン会議構成イメージにはそのような記載がありません。）

【意見】

- ・満喫プロジェクトの一環として、「世界水準の国立公園の中の川湯温泉」にしなければならないという説明がありましたが、地域を運営していくのは環境省やコンサルタントではなく地域の人間です。当マスタープランは閉ざされた協議会の中で話し合わせ、地域住民とのコミュニケーションが有効になされる前に公に発表されてしまったことに問題があると思います。弟子屈町役場内での議論がなされたかどうか不明です。弟子屈町全体の将来像（総合計画や観光振興計画）から落とし込んだ川湯温泉のあり方を議論する

べきで、川湯オープン会議では出来上がってしまったマスタープランを本当に方向性とすべきかどうかから協議していただきたい。

- ・ 町が推進する SDGs、ゼロカーボンシティ、エコツーリズム、GSTC、星空の美しい町、と今回のレジャーランド的なマスタープランは相反するものに見えます。町が向かう方向性を追及することが、より高いブランド力になり、最終的には経済につながるものと思います。(町の方向性がただのポーズだとしたら、訪れた人を裏切ること、つまり再訪されないことになります。)
- ・ フェーズ 1 の川湯ラグーンを星野リゾート進出に合わせて整備するために、逆算してこのタイミングでマスタープランを公表したという説明がありました。水量調査や維持管理の仕組みも想定されないままに、注目を集めるためだけに描かれたと思われるイメージ図に大きな疑問を感じます。
そもそも、ラグーンとは砂州やサンゴ礁によって外海から隔てられた水深の浅い水域のことであり、川湯温泉とは全く無縁です。名称、規模ともに再考していただくことを強く願います。
- ・ 川湯温泉のみならず、弟子屈町の経済規模や人口規模を含む将来像を「見える化」して説明をしていただきたい。弟子屈町中心街の新施設、屈斜路のワイナリーやコタンの新しい施設など、役場内の担当課が個別に進める施策を町全体として町民にも見せていただきたい。
- ・ 今回の説明会で回収した全アンケートを公表していただきたい。また、質問については回答を掲載したうえで公表していただきたい。

○10月22日（日）川湯ふるさと館

20代 町外事業者

- ・自然保護によって地域振興することが前提（できないのは努力不足と覚悟がないだけ）
- ・協議会に、20年後に現役世代となる人や、女性がいらないのは論外。
- ・住民説明会平日の夜もやるべき
- ・上質な地域とは少なくとも人工物を配置したものではないはず。
- ・町全体？活性化？川湯だけに見える。弟子屈全体に波及しないといけないと思う。
- ・マスタープランこの中のどこに住民意見を反映しているのか？ラグーンは住民の要望なのか？
- ・世界にというのはターゲットをしぼれていない
- ・入浴施設住民1000人＋観光客でももととれるわけなし
- ・地方に箱モノという考えが時代おくれたと思う。

60代 住民

- ・現状提案されている20万人/年の妥当性が明確ではない。大幅な人口増を見込んだ計画になっているように見え目標とする規模が大きすぎるように見える。
- ・今回の説明会の質問事項と回答をPRする会を設けて欲しい。
- ・20年をいくつかのフェーズにもっと明確に分けた方が良いのではないかと？4～5年単位でそこで止めても大丈夫なタイミングを作って、見直しができるようにするのは必要と思う。
- ・町からの仕様として、温泉街のどこでも星空が見られるようにというのを出すのが良いと考える。
- ・観光協会が星空を一つのコンテンツとするべく動いていることとも一致する。
- ・かつての「摩周湖星紀行」がキラークンテンツであったにもかかわらず、中止に追い込まれたのは、移動手段のコストが上がったからなので、移動しなくても星が見られる環境を作るのは、将来的に集客に好影響を与えることが明白である。
- ・現在の照明の技術、照明コーディネータの力量からすれば、星を見ながら、安全を確保することは十分可能である。
- ・可能であれば、上方光束ゼロが望ましい
- ・エコであること、サステナブルであることなど、環境にやさしい温泉街をアピールする意味でも、星空が見られる工夫は、プラスに寄与すると考える。
- ・このような要望を発注仕様に加えることを提案します。
- ・この提案の可否について、回答を要望します。
- ・否の場合には、その理由の提示を要望します。（川湯温泉街にとって、ネガティブな要素があると思えないので、説明を聞きたい。）
- ・以上よろしく願いいたします。

50代 住民

- ・予算について全体予算の説明がない。
- ・星野リゾートはどこまで出す？残りは町が出す？いくら？どうやって捻出？

30代 住民

- ・観光のみではなく、雇用、移住等も続けて計画してほしい。
- ・川湯温泉までの交通手段が少なすぎるためどうにかするべき。
- ・現状のインバウンドの対応に川湯の人たちがあまり関心がなさそうなので色々と変わってほしい。

40代 住民

- ・全体にアプローチしようとしている為、全体的にボヤっとしている
- ・川湯の良さを出すというコンセプトはわかるが、どう来た人が楽しむのか考えた方が良い。
- ・今の人間の感覚を知らないといけないかなと。

40代 住民

- ・現在星がきれいに見られる地域であるため、この環境は活かしていただきたい。(使用ライトの選定)
- ・飲食店が省力化キャッシュレスに対応できていないためシステムを統一して参入しやすくしてもらいたい。

20代 住民

- ・川湯広場の計画 頑張ってください！

40代 町内事業者

- ・星野さんに対して、町としてしっかり意見が言える関係（立場）でいてほしい。

20代 住民

- ・釧路や札幌や各空港からの送迎（移動）計画はぜひ早めに考えてほしいです。
- ・私は東京出身ですが、友達を東京から呼ぶにはまだ魅力よりも交通の不便さ、斬新さに欠ける部分があると思います。
- ・東京からくるとき、札幌からくるときどういうプランで川湯で過ごすといいのか（ほかの観光地をまわってくる流れ？）提案もほしいです。

40代 住民

- ・オーバーツーリズムの問題。外国人が多くなると日本人が来なくなる（治安の悪化）
- ・日本人観光客と外国人観光客の住み分け
- ・水着で入れるプール（温泉）があると良いがメンテナンスや冬期の客が少ない時期も考

えて欲しい。

- ・ 飲食ブースはカフェ等はフードコート、お酒を出す店は屋台など客層の住み分けは行ってほしい。
- ・ キャンプ場の客も安くしすぎずある程度お金を取ってほしい。
- ・ 各施設町民割があるとうれしい
- ・ 市街地の住民が来やすい電車、バス等の整備は？
- ・ 連泊してくれるお客にメリットがあるような仕組みを考えてほしい

40代 住民

- ・ 正直に申し上げて本当に「わからない」でした。すみません。というのは欣喜湯がない。などの所もまだ確定ではない部分の方が多いのではというのが本音です。もちろん構想であることを把握している方もいると思いますが、このような場に積極的に参加してはこないタイプの人こそ「これが完成形」と思うような傾向があるのではという印象です。（すみません）。なので「既存のホテルがない!?!」「家がない!?!」と思われてしまって役場の方たちも本来個々にしなくても良い（現時点ではという意味です）説明を個別にするなど手間が増えそうな気がしていました。

メディア報道の仕方もあるとは思いますが、そのあたりの周知が行き届いていないような印象があります。そのためこういった場であることは承知ですが、日曜の川湯とはいえ参加人数からしても、どれだけの住民が「知ろうとしているか」も含めて、浸透していないというか、一人歩きしている部分とそうでない部分の温度差を感じます。

あとメディア報道でも一言で温泉街の衰退とかそういう書かれ方ですが、川湯温泉街は強酸性のため何でも錆びるのが早く、とにかく維持費、修繕費がかかります。そのあたりについて触れている所がほとんどないので（地元住民が知っているというだけ）既存施設の努力不足で廃業、倒産したように見られるのはちょっと違うかな？という気がします。報道の仕方をもう一工夫ほしいなというのが正直な所です。（もちろん個々の企業努力は必至です！）

展示パネル、写真もきれいでおしゃれな雰囲気なのですが、WEBで見たとき、ここで見たときも、文字が小さく写真にそえている説明（例えばキャンプ場 ゾーンなどの右上に書かれた文字）が、うすくて小さくて読みにくいというのが本音です。自分は40代半ばですが、これはある一定以上の年齢の方には厳しいのでは。

おしゃれで雰囲気のある画像なのはインパクトの意味でも良いと思うし大切な事だと思うのですが、プラス「読みやすさ」は大切にしていただけたらありがたいです。湯の川がつむぐカルデラの森の温泉街のパネルなどは近付いても読みにくかったです。すみません。

廃墟となったホテルを今回は満喫プロジェクトで解体することができましたが、本来であれば民間企業の建物は責任を持って自分たちが管理するものだと思います。そのあたりが今回のプロジェクトで、既存企業、新規企業が良い方は悪いですが「逃げてしまわない」ような決まりは必要なのでは？と思いました。

70代

- ・楽しみにしています。

10月24日（火）川湯ふるさと館

60代 住民

- ・地元の意見も取り入れて進めてください。

70代以上 住民

- ・マスタープランは叩き台であって住民、町民の意見を聞き飽く迄で取り入れて欲しい

40代 住民

- ・基本的に歓迎ですが、住民の意見をもって聞いてほしい。
- ・今、現在川湯に住んでいる人々が住みづらい町にしないでほしいというかもっと住民のことを考えて欲しい。

40代 町内事業者

- ・事業者とは関係ない一般参加（住民）は、今回の川湯で開催した住民説明会でどのくらい参加したのか知りたいです。

20代 住民

- ・魅力的なまちづくりも重要だと思うが、旅行者にとっては（特に海外の方）もっと広域的に見て旅行先を選ぶと思う。
- ・あとは住民が置いてけぼりなるような計画にならないといいなと思いました。（観光に携わる人以外にはあまりマスタープランについては浸透していないので）

40代 住民

- ・まず、ラグーンについて、反対意見もあると思いますが、スピード感重視でどんどん進めていただきたいと思います。千歳の工場の建設、札幌近郊の開発と道内の工事が決定しており、業者、作業員、重機の不足が心配です。（2026年オープンに当たり）
- ・ラグーンの賛否について、アプリか、SNSを使い住民向け、町外者向けのアンケートを実施してはどうか。小樽運河の存続も6：4で決まったと聞いている。

20代 町内事業者

- ・夏場に屋外プールに入る文化がないので、想像がつかなかった。20年間続けて行こうというよりも、常にカタチを変えていけるデザインで作ってほしい。北海道はすたれる建物が多いので一つの目的をなすものを作るのではなく、5年毎にカタチ・キノウを変えながら発展していけるよう勧めて欲しい。
- ・新しいことをしているので不安な部分もたくさんあり、リスクもたくさんあると思いますが、新しい挑戦はとてワクワクして面白そうだと思います。がんばってください。楽しいところができことを楽しみにしてます。新しいものを常にできるように建物を作ってください。

50代 町外事業者

- ・川湯オープン会議とまちづくり会社の構成が重要なポイント。ボトムアップとトップダウンの合成が非常に難しいので成功事例を研究し反映させると良いかもしれない。

50代 町内事業者

- ・湯治場のような施設があると良いと思います。

50代 町内事業者

- ・ぜひ成功させてください。

50代 住民

- ・策定を急ぐべきではない。ラグーンは反対です。コストパフォーマンスが悪いと感じる。
- ・世界から人を呼ぼうとすれば川湯の整備に資金を集中するのではなく、国立公園全体に回すべき。
- ・川湯が魅力的だから来るという人は少ない。国立公園の魅力に人は来てるので。

50代 町外事業者

- ・泉質が魅力的で良い温泉だと思います。川湯が再生され、より魅力的な温泉地になることを期待しています。

40代 住民

- ・地下の水路、泉源を変えると周囲の環境にどのような影響があるのでしょうか？本当にラグーンをやって大丈夫でしょうか。

30代 住民

- ・見た目のインパクトとか派手さよりも、それが持続するか人にやさしい設計となっているか（地域住民や不自由な人にも）そして国立公園なので事前に寄りそった形となっているかを重視したものであってほしい。（野生動物不必要に木を切らないとか）

30代 住民

- ・今後も透明性の高い情報提供を期待する。皆がポジティブな気持ちで関われる、川湯の歴史に則したよい街づくりをしましょう。

70代以上 住民

- ・ここ数年は、高齢者（65歳以上）のアジア人たちのバスツアーが50%は占めているだろう。その先Z世代が余裕ができツアーに来る。その時今より進んだAIを利用しているかも。この資料は現在まだ未熟なAIで精査したものです。ここでは観光地、温泉地などの評価がかなり客観的。データの積み上げ分析で表示されるということ。ここ川湯の観光財産は作り上げられるものではなく森林、硫黄山、摩周湖の水質、屈斜路湖の水質、

湖畔の自然、夜星などこれらが一番の財産となり、いかに保全されるかにかかっている。

【以下同人からの意見】

- ・川湯温泉街まちづくりマスタープランの説明会お疲れさまでした。

(感想とお願い)

- ・更地の利用案として、その周りの環境「湯の川」や裏手の森林の開発計画であることは理解できる内容でした。

このマスタープランが観光に来られる方の目的に叶うかなどに、についてのご説明内容は、十分ではないと感じました。

2026年の、年間観光客20万人、売上高80億円の「裏付け」がお聞きしたかった。

厳冬期の白いシーズンでの顧客の動向への対応は？道東の地理的中心地として、他地区の阿寒、知床、野付、鶴居などとSNS連携、世界発信の英語版化も必要。

観光として、通年できるもの、できにくいものをどう克服、これは、移動手段の利便性の問題でもあります。

川湯温泉の住民も川湯温泉と町との移動の利便性改善も必須。全国にこのような過疎地区はあり、その地区で発電し、EVの無人運転化による、無料移動の実現は、観光客にもおおいに歓迎されます。この問題は先行する他の自治体などとの協力も視野に実現を急ぎたい。

○裏付けとして下記の項目ごとの2024~26年の毎月の予測数

□観光客（顧客）の各種分析

- ・顧客内容の予測：個人、夫婦、家族、グループ各々の割合など
- ・顧客の最終交通手段：バス、汽車、タクシー、レンタカー、バイク、乗用車、キャンピングカー、など
- ・顧客の宿泊費用の予測：ホテル、旅館、ペンション、キャンプ、車中、キャンピングカー、など
- ・顧客の目的：入浴、摩周湖見学、硫黄山見学、硫黄山歩行、屈斜路湖砂湯見学、コタン見学、和琴観光、美幌峠見学、藻琴山展望、など
- ・顧客のアクティビティ：摩周湖廻り、ツツジが原歩行、藻琴山登山、和琴半島歩行、ロングトレイル、スノーシュー、カヌー、SUP、お祭り、イベントなど
- ・お土産：シマエナガグッズ各種、お菓子、木彫りグッズ、など

以上の基本的数値に基づき、2024~26年の月別の収入、経費を算出してください。算出につきましては、

○楽観的な案○バランスの取れた案

○2024~26の社会状況、温暖化などの環境変化を十分に考慮した案

お願いは以上となります。宜しくお願い申し上げます。

60代 住民

- ・観光はもちろん住民が住んで豊かになる川湯温泉街づくりである事を願います。

20代 町内事業者

- ・地方に箱モノを建てるのが時代遅れだと思う。維持費が将来の負担になると思う。
- ・省エネや自然を大切にしていこう姿勢が必要だと思う。

例えばジェットスキーで屈斜路湖に乗り込むより、ガイドさんとカヌーでゆっくり進む方が自然に大切さが伝わると思う。その地域がどんな使い方をしているかで自然に対する意識を伝えることができるのもったいないと思う。

60代 町内事業者

1. 現状

a. 町民とのコミュニケーションにおいて、ちょっとずれが生じている部分

i. 「マスタープラン」という名前

主君、校長、船長、先生、主人・・・といった意味を持つ「マスター」という言葉が使われたことで、「すでに決定された、絶対的な計画」という印象を町民に与えた。

→異を唱える人は、「強い反対」を意思表示せざるを得なくなった。

→「強い反対」というほどではない人は、意見があっても発言しないことになった。

町民と建設的な意見交換をする場が、事実上少なくなってしまった。

ii. ラグーンという名前

大規模な開発をイメージされてしまい、「強い反対」を受けることになった。

ラグーンのイメージが先行してしまって、全体像などを議論する機会が少なくなってしまった。

b. 町の考えが見えてこない部分

i. 目標とする規模の妥当性

20万人/年という妥当性が全く説明されていない。

その数字の妥当性や、それに伴うインフラや人口推移などが全く語られていないので、ベースとなる町の姿が見えてこない。

ベースが見えない状況での議論なので、各論の是非のみが語られて、町全本の姿の議論になっていない。

ii. 時間軸に対するグラデーションの不足

通常、長期計画の場合には、近々の計画は詳細に、未来になるほど大雑把にイメージが描かれる。今回出てきたマスタープランは、すべてが同じ濃さで描かれているように見え、違和感がある。最初の3年間で実施されることと、その後のことを明

確に分けていないので、町民の質問等に対して、具現性が全く見えてこない。
さらに言えば、最初の3年までで、何か想定外の状況になった場合にも納められるような計画であるべきと考える。フェーズごとに、検証期間を設けるような考え方が妥当と考える。

【現状のまとめ】

どんな感じの町にしたいね(スケール感)が、まったくされていないところに、マスタープランとして出てきたので、懐疑的な印象を持たれたり、反発されたりということになって、「ありがたい街の姿の議論」にならなかった。

このまま、「町民の声」を聴いた。と結論付けて、前に進んでいいように見えない。

2. この状況になった原因と対策

a. 言語の、共通化

3月の説明会でも「MP」という略号がそのまま使われ、町民を煙に巻くような状況になった。その時から使われている「マスター」という言葉、「ラグーン」という表現について、今回の説明の中で「名前の付け方が良くなかった」と言っているわけなので、正しい共通言語のもとに、再度町民の中での議論を活発化させる必要がある。

b. 周知期間の短さ

今回の説明会で、初めて聞いたという人が多かった。

3月の説明会は、人数限定で実施された。など、周知が十分でなく、唐突に出てきた感がある。さらに「マスター」として、決定事項のような印象を持たれてしまったので、落ち着いた議論になっていない。

今回初めて知った人を含めて、議論の時間を一定期間とるべきである。

c. 周知-ヒアリング手段の不足

事前に町民の声を聞いたという説明があったが、業界団体・組合などを通した形になっているので、そういったものがない、自然ガイドさんなどの意見がもともと抜け落ちている。

自然を売りにして、ツーリストセンターなどを設置するような計画を議論する中で、ステークホルダーが欠落していたと考えられる。

【対策について】

ここまでの内容から、現時点で、やっと町民とのコミュニケーションが取れ始めた段階だと考えるのが妥当である。言葉の説明を丁寧に繰り返し、規模の妥当性について、機能の妥当性について、議論をする期間を2~3か月とるのが良いと考える。

計画を遅らせないためには、ワークンヨップ、オープン会議なども早急に進める必要があるので、その中でも上記のような内容を丁寧に説明し、議論を重ねて理解を得ることが必要である。

実際のところ、今回の説明会で、「町民の意見を聞いた」と強弁し、計画を推進す

ることは、役場にとって不可能なことではないと思います。しかし、規模の妥当性などを、役場の担当職員でさえも理解していない状況で、強行することは、町全体の将来にとって、よいことではないと考えます。

町民とのコミュニケーションを復活させ、町全体として推進できる体制づくりを期待します。